

京都大学国際交流センター

論 攷

6号

研究論文

安部公房「保護色」の素材と方法

——シュルレアリスムとマルクス主義理論の実践として——

..... 佐々木 幸喜 ... 1

「着点」と「起点」が示す「目的／因果」表現の双方向性

——「ために」を中心に——

..... 宗田（山梨）安巳 ... 21

研究ノート

文の統合と文章構成に関する問題点

——日本語・日本文化研修留学生のレポートから——

..... 中畷 容子 ... 43

投稿要領 51

編集後記 53

2016年2月

京都大学国際交流センター

論 攷

Ronkô

The International Center Research Bulletin
Kyoto University

第 6 号

2016 年 2 月

京都大学国際交流センター



『京都大学国際交流センター論攷』 投稿要領

(2010年6月25日、国際交流センター教員会議決定)

1. 刊行の趣旨

『京都大学国際交流センター論攷』は京都大学国際交流センター（以後、「国際交流センター」）に勤務する教職員の研究及び教育活動・国際交流実践の成果を発表する場とする。

2. 編集

本論攷の編集は国際交流センター教員会議で選出された編集委員会にて行う。また、投稿された論稿の採否については編集委員会が査読の上、審査・決定する。

3. 投稿資格

投稿は、

- 1) 国際交流センター専任教職員
- 2) 京都大学において留学に関連する教育に携わる教員
- 3) 国際交流センター非常勤講師
- 4) その他に国際交流センターと連携し、本センターの推進する業務に携わる者で、編集委員会が適当と認めた者

が執筆した未発表の論稿に限る。

但し、ページ数の関係上競合が生じた場合、原則的に上述の順番を原稿の採用順としながら、編集委員会において調整を図る。

なお、各号への投稿は1名1本を原則とする。

4. 投稿原稿の内容

原稿の対象分野は次の通りとする。

日本語研究、日本語教育及びその調査・研究、日本文化研究、日本文化教育及びその調査・研究、留学生アドバイジングに関わる調査・研究、高等教育の国際化に関わる調査・研究、留学生ニーズ・留学実態に関わる調査・研究、第二言語習得に関わる調査・研究、多文化交流教育に関わる調査・研究、学術・学生交流施策に関わる調査・研究、その他、国際交流センターが推進する業務と関わりのある分野で編集委員会が適当と認めたもの

5. 原稿の種別

- 1) 研究論文
- 2) 調査報告または実践報告
- 3) 研究ノート

6. 原稿の体裁

- 1) 原稿は、A4判横書きとし、和文の場合、40字×34行、英文の場合、ダブルスペース25行とする。
- 2) 原稿の分量は、研究論文は20枚程度、調査報告または実践報告は15枚程度、研究ノートは5枚程度とする。提出原稿に、研究論文、調査報告・実践報告、研究ノートの種別を明記する。
- 3) 原稿には、和文・英文両方の標題、日本語（400字程度）及び英語（200語程度）による要旨、キーワード（5つ以内）をつける。
- 4) 電子ファイル及び出力した原稿の両方を編集委員会に提出する。

7. 執筆言語

執筆言語は日本語または英語とする。

8. 査読

編集委員会を選出した2名の査読者が査読を担当する。

9. 校正

校正は、編集委員会のコメントに基づき、執筆者本人が所定の期日までに行う。

10. 著作権

『京都大学国際交流センター論攷』に掲載された研究論文、調査報告・実践報告及び研究ノートの著作権は国際交流センターに帰属するものとする。また、国際交流センターは、掲載原稿を電子的な手段で配布する権利を有するものとする。但し、編集委員会に連絡の上、掲載原稿を著者の著作物に掲載することや電子的な手段で公開・配信することは可能とする。その場合、『国際交流センター論攷』に掲載されたものであること、号数などを含めて明示する。

11. 投稿締め切り

毎年9月末日を締め切り日とする。

12. 抜き刷り

執筆者には掲載号を3部進呈する。抜き刷りは実費負担となるが、必要な場合は、採用決定後に編集委員会に通知する。

編集後記

本年度は、『論攷』に初めて国際交流センターに所属する非常勤講師の先生方の単著を掲載することができた。国際交流センターの行っている教育活動やその活動を支える基礎研究を、学内・外に発信する場としての役割を本誌が担っているからであり、また、その活動は当然のことながら非常勤の先生方にも支えられているからである。今後も非常勤講師の先生方にも発表・発信の場として『論攷』を積極的に活用して頂きたいと願っている。

2016年4月より国際交流センターが国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターとして新たなスタートを切ることになっている。それに伴い、本誌も一旦その役目を終え、新センターの設置目的や学内で担うべき役割を踏まえながら、新たな一步を踏み出すこととなる。新・旧センターの名称にも反映されている通り本センターの教育活動の対象も変わることが予想される。真価の間われる激動の時にこそ、原点に立ち戻り、教育の更なる質的向上に努めるべきであり、故に、本誌の役割も一層重要なものとなるはずである。

本号の査読に、他部局を含む学内の先生方3名及び学外の先生方3名がご協力くださった。編集方針に触れるので、査読者の氏名を掲載することはできないが、ここに記して心からの感謝の意を表したい。

本誌は読んでくださる方々に支えられている。多くの方にお読み頂けること、多くのコメントが寄せられることを願って止まない。

編集委員会 ルチラ パリハワダナ（委員長）、河合淳子、家本太郎

京都大学国際交流センター

論攷

Ronkô

The International Center Research Bulletin
Kyoto University

第 6 号

2016 年 2 月発行

編集・発行者：京都大学 国際交流センター

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL : 075-753-2242 FAX : 075-753-2562
<http://www.ryugaku.kyoto-u.ac.jp/>

印刷所：(株) 田中プリント

Ronkô

The International Center Research Bulletin
Kyoto University

Volume 6

Research Papers

- The Materials and Methods of Abe Kobo's "Hogoshoku (Protective Coloration)":
An Expression of Surrealism and Marxist Theory
..... Yuki Sasaki ... 1
- The Bidirectionality of Source /Goal in the Causality /Purpose Expressions:
With Special Reference to "Tameni"
..... Yasumi (Yamanashi) Soda ... 21

Research Notes

- Problems Regarding Sentence Structure and Argumentation in Academic Papers
in the Humanities
..... Yoko Nakashima ... 43

Contribution Regulations 51

The Editor's Comments 53

February 2016

